

産業教育振興中央会・経済同友会共催

みんなで描く

みんなの未来
プロジェクト

専門高校生徒の 研究文・作文コンクール 受賞作が決定

経済同友会は今年度、初めて、「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」を、産業教育振興中央会と共催で開いた。目指すべき社会像を幅広いステークホルダーと共に探る「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」の一環だ。全国から寄せられた研究文52編、作文356編の応募作から、経済同友会賞として研究文2編、作文4編を顕彰した。



「作文の部」で受賞した大川貴裕さん(左)と横尾敬介副代表幹事・専務理事

「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」は、産業教育振興中央会が1982年から主催してきた。専門教育を主とする学科で学ぶ高校生たちの学習意欲を高め、専門高校の活性化を図ることが目的だ。

今回、経済同友会が賞を設けたのは、専門高校生の研究や学習成果を経済界からも応援し、広く社会の関心を高めるのが狙い。活力ある社会を築く上で、仕事に直結する技術や知識を学ぶ専門高校生の役割は大きいと見るからだ。

経済同友会と教育現場の交流は1999年にさかのぼる。会員による出張授業など、過去に2,000回を超える活動をしてきた。2011年からは震災復興プログラム「IPPO IPPO NIPPON」を始め、東北や熊本など被災地の専門高校に学習機材を提供してきた。この活動を通じて、将来の日本の

産業・企業を支える専門高校の重要性を再認識した。

コンクールは、専門教育に関する研究文と作文の2部門。前者は、個人やグループで、研究や実験、調査などの成果をまとめる。後者は、個人が将来の仕事への抱負や決意などを述べる。3月に告知し、4月から9月まで募集した。

全国から集まった作品を事前審査し、その中から入選作と各賞を選んだ。産業教育振興中央会は、研究文の部と作文の部で、最優秀賞各1編、優秀賞各3編、佳作各4編の計16編を入選作とした。経済同友会賞は、経済同友会審査委員会(委員長:横尾敬介副代表幹事・専務理事)が、妥当性、論理性、独創性、説得力、将来性の五つの視点を基に判定、6作品に決めた。

経済同友会賞の受賞作品は、当会ホームページに掲載する。また、全ての入選作は、産業教育振興中央会が発行する『翔、第27集 専門高校生徒意見・体験発表文、研究文・作文集』(同会刊)に収められる。

経済同友会審査委員会

※敬称略。役職は開催当時

審査委員長

横尾 敬介

副代表幹事・専務理事 / 広報戦略検討委員会 委員長

審査委員

日比谷 武

学校と経営者の交流活動
推進委員会 委員長
(富士ゼロックス 顧問)

久慈 竜也

IPPO IPPO NIPPON
運営委員会 委員
(久慈設計 取締役社長)



審査は11月9日に行われた

審査委員長 講評

副代表幹事・専務理事 横尾 敬介

経済同友会は、本会会員(経営者)の枠を超え、社会のあらゆるステークホルダーと議論、対話、連携していく多様な場(テラス)を作り、目指すべき社会像を共に模索する「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」を実施しています。その一環として、若い世代が将来のありたい姿をどのように描いているのかを知ると同時に、彼・彼女らの日ご

「経済同友会賞」受賞作品

<研究文の部>



有機の力で蘇れ!

～遠野早池峰葉の普及拡大を目指して～

岩手県立遠野緑峰高等学校

【生産技術科3年】千葉 光貴さん、小原 香澄さん、佐々木 寿斗さん、新田 優貴さん、赤石澤 真奈さん、不動岩 羅夢さん、山蔭 沙衣さん、菊池 泰平さん(上写真)

寸評 地元産の「遠野早池峰葉」の普及を題材にして、6次産業化に向けた活動や新たな農家の経営モデルを目指すとした研究は、地方創生の未来に意義深いものと思われる。



学科間連携による相乗効果の検証 ～伝統工芸「柳井縞」の地域ブランド化に向けて～

山口県立柳井商工高等学校 【ビジネス情報科3年】関永 佳奈実さん、中岡 祥乃さん 【同2年】倉増 紗希さん、坂野 日菜さん、新田 実桜さん、森田 愛菜さん 【建築・電子科2年】新田 純弥さん

山口県立厚狭高等学校(協力校) 【総合家庭科3年】伊東 滯南さん、俵 絵里奈さん

寸評 学科の枠を超え、他校や地域との連携を主体的に実践し、それぞれの良いところを活かして地域活性化に結び付けている。

<作文の部>

水産業への思い

～そして私にできること～

岩手県立大船渡東高等学校

【農芸科学科2年】及川 里桜さん(下写真左)

寸評 震災からの家業再建を通して、仕事の意義ややりがいなどを多く学んだ。その過程を通じて自分は主体的に何ができるかを考え、具体的に実践・改善を重ねている。



その資格で得たものは

東京都立総合工科高等学校 定時制課程

【総合技術科4年】大川 貴裕さん

寸評 少しずつ授業が分かるようになってところから「技術力」=「資格」に目覚めたこの生徒。達成感を表現しており、進路についての考え方にも力強さを感じた。

一歩、看護師へ

宮城県白石高等学校 【看護科3年】西方 七海さん

寸評 初めての実習体験とその戸惑いの方がかりやすく表現されていた。看護師としての仕事への無限の可能性を得たことが感じ取れた。

一生懸命

愛知県立安城特別支援学校 【高等部3年】岸本 百々香さん

寸評 障がいがあり、不安なこともありながら、実習や学校生活に真面目に向き合う様子がうかがえた。一生懸命な姿がよく描かれている。

るの学習成果に対して経済界からもエールを送りたいとの趣旨で、今年度初めて本コンクールを共催する運びとなりました。

審査にあたって、専門高校における産業教育の現状について、理解を深める機会を得ることができました。

研究文の部は、データの裏付けを基にした明快な論理構成かつ、専門家や他校との連携を主体的に実践している事例が高く評価されました。作文の部では、どの生徒も生い立ちや生活環境が異なる中で懸命に学び、いかに最善を尽

くすかといった前向きな取り組みが描かれており、力強く生きようとする姿が審査委員の感動を呼びました。

今回の審査を通じて、明日のわが国を担う世代が全国各地でたくましく、着実に成長している様子がうかがえ、非常に頼もしく思いました。これから社会に出られる皆さんを迎える経営者として、本コンクールに応募された一人ひとりが、各作品で訴えたような「失敗を恐れない強さ」と「挑戦し続ける心」を持って、新しい世界に羽ばたかれることを願っています。